

スペシャル試乗

速いサブ/ホットな心臓を得て
スポーティセダンへと変身

Heuschmid Tuning HS-3



YAMUHO
YAMUHO
「ホーナー」の兄弟「ハイパー」



このHS-3は、ヨーロッパの
リングカー選手権で得られたデータ
をベースに開発されたもので、ター
ボモデルとはいえあまり過激な走り
を期待できなかった。800ターボも
スポーティセタンへと大変身させて
いる。今回は一般道での試乗イン
プレッションにとどめたが、いずれ
9000ベースの「HS-1」が到着
した際には、共に志田邸での計測を
行なう予定だ。

スペシャル試乗



◀エクステリアの変更は、フロントスポイラー、リアアンダースポイラー、サイドステップの3点。よりシックに、そして実に前かがみには上げられており、まるで純正高のようだ。このエアロパーツは、ドレスアップとしてのみではなく空力向上の効果もある。真横から見るとフロントがぐくく低くなっているのがわかるが、これはサスペンション変更のためで約30mmほど低められている。ちなみにこのサスペンションの価格は28万円。

▲リアール製のオリジナルホイールをスタンダードで換装する。タイヤは165/55R15のアドバンセッド。ちなみにオリジナルの価格は1本4万5000円。
 ▶試乗車のインテリクスは、スタアリング変更されただけで、その他はオリジナルのまま。スタアリングはこのほかにも市販品もあり、いずれも5万8000円。シートは165000円への変更も可能だ。ダッシュボードのアルミパネルはブレースと圧コントロールラーがつく。写真は別紙参照。市販の際にはインテリアとコーディネートされる予定だ。



燃費カット効果のバリエーションは、まあなく先述する予定というところで、フル・ブーストでの加速は今回はおあずけとなつてしまつた。
 A.T.5速の100km/hから100km/hまで、この時のノイズは非常に低く検出された。この回転からならたちまちターボトルクが湧き出し、強力な加速に移れる。
 トルクのもっとも強力なのは4000rpm以上の領域で、これはスピンで換算すると140km/hになる。ここから160km/hまでの

加速は斜しくアウトパターンでは驚くほどトルクがでてくるだろう。エンジンと共にチューニングされた。足はさすがにハイゲイナを感じが最初はしたものの、やがて乗り慣れると気にならなくなる。
 高速道路での乗り心地は路頭の状態で長ければ、まったく快適で、少々、気になったのは直進性で、レーンチェンジを100km/hの領域で行なうと、ややフラつく。どうやら電力バランスの問題ではないかと、推察された。フロントの大型スポイラーとリアスポイラーのバランスで、リア側が不足しており、フラクキやすいのではないだろうか。それ以外の走り、特にワインディングなどのスチージでは抜群のものがあるのには驚いた。
 ワインディングの走りはまさにフアンタスティックである。
 P.F.の常で舵角はやや大きく、初期応答は鈍いが、そのかわりコーナーリングに入るとまるでキング・ザ・レールのように、ステアリングに正確に狙ったラインをトレースする。信じられないことに、この時フルスロットルにしてもアンダー傾向とはならず、そのままコーナーリングラインをなされる。こんなにスタビリティの良いP.F.は見たことがない。むしろ、その感覚がわからないので不安になるほど素晴らしいコーナリングを示し、アドバン・目下コーナリングを示し、アドバン・目下コーナリングの動きを見せた。ハイゲイナと、サーブのステアリングはハイゲイナであり、ワインディングロードでも実に楽しいワゴンだ。
 (この試乗は、モーターバイスエディンが担当した)。